

令和6年度 孤独・孤立に関する悩みごと調査 結果

<目的>

- ① 孤独・孤立の課題を抱えているが相談に行くことが（でき）ない方に対し、訪問調査によって悩みごとやニーズを把握することを目的とする。
- ② 地域住民と地域包括支援センター、市が協働で調査を行い、訪問対象者の孤独・孤立に関する意識向上や、訪問を行う3者間の連携強化によるよりよい地域づくりを目的とする。

<実施方法>

- ・ 地域住民と市職員又は地域包括支援センター職員の2人ペアで訪問。
- ・ 不在者には不在票を投函し、2回訪問を実施。再度不在の場合は、チラシ等（※）の案内を投函。
※オンライン回答用の二次元コードを添付

<調査期間>

令和7年1月27日（月）～2月16日（日）

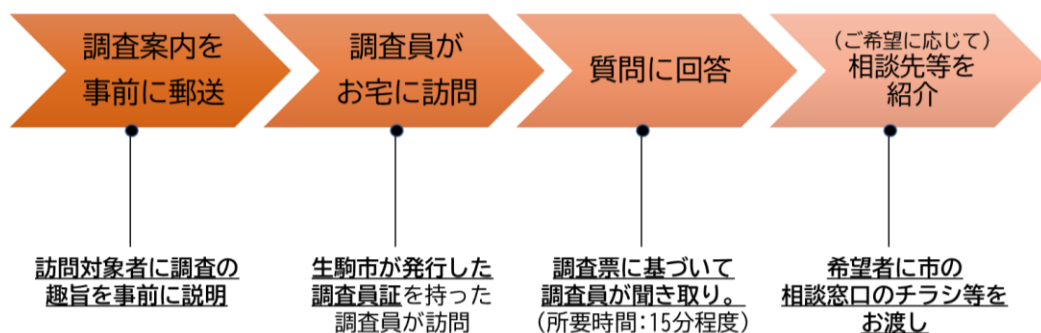
<調査対象>

- ・ エリア：生駒台北、南の一部
- ・ 訪問調査件数：101件

<調査担当者>

- ・ 生駒台自治会：3名
- ・ 生駒台ふれあいクラブ：2名
- ・ 阪奈中央地域包括支援センター：5名
- ・ 生駒市：3名

<訪問調査の流れ>



<調査結果>

単位はすべて（件）

対象世帯数	空き家等	訪問数	在/不在		回答数※2	調査拒否
117	16※1	101	在宅	72	66	6
			不在	29	2	

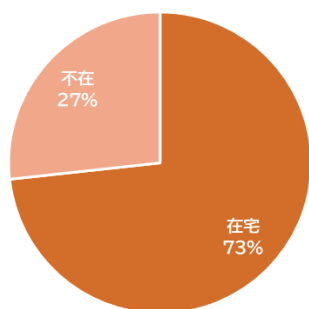
回答数	性別				世帯状況			
	男	女	夫婦で	未回答	単身	複数	高齢者のみ	未回答
68	22	41	3	2	11	55	20	2

回答数	家族関係					
	良好	概ね良好	普通	やや悪い	悪い	未回答
68	54	5	6	0	0	3

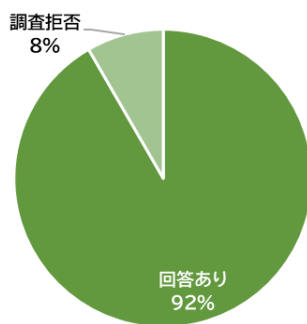
※1：電話にて事前に訪問拒否のあった1件を含む。

※2：不在者による回答は、オンラインによるもの。

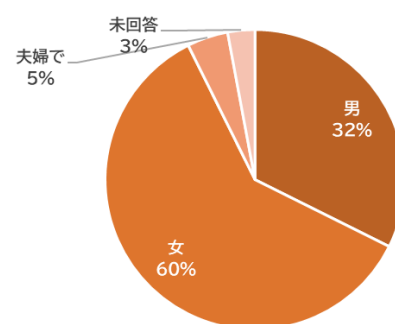
○訪問時の在宅率（2回訪問含む）



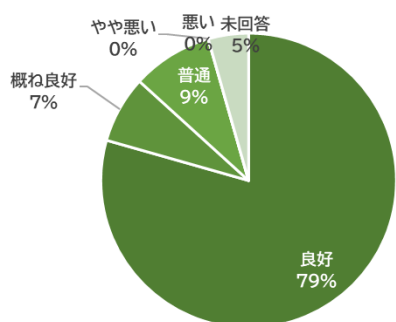
○在宅時の回答率



○回答者の性別



○家族関係



○世帯状況

	世帯数
単身世帯	12世帯（うち高齢者のみ10世帯）
複数世帯	54世帯（うち高齢者のみ10世帯）
未回答	2世帯

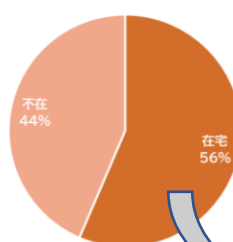
<2回目訪問の効果>

	1回目訪問	2回目訪問※
在宅	57件	17件
不在	44件	29件

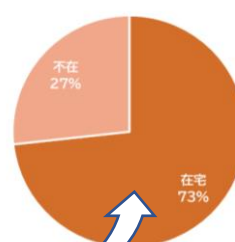
※2回目訪問対象者は、1回目の不在者及び

1回目訪問時に再訪を希望した2世帯。

1回目訪問終了時の在宅数



2回目訪問終了時の在宅数



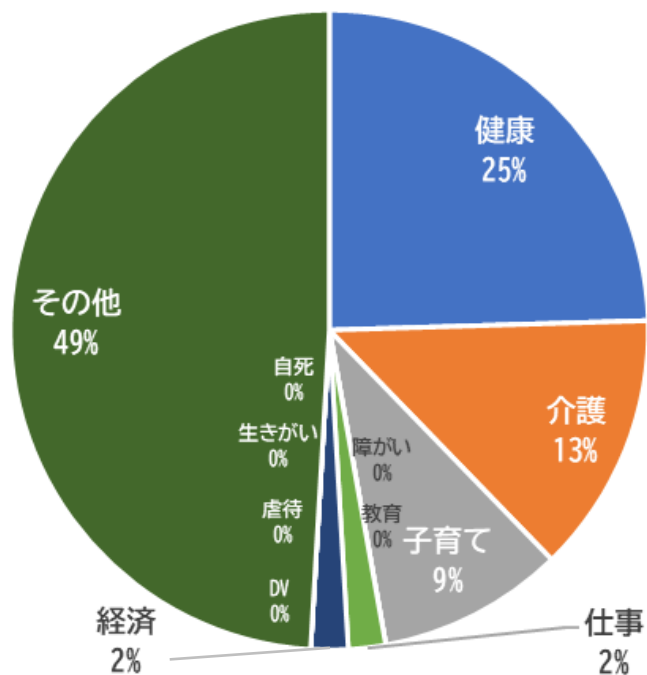
○聞き取り内容の類型（複数該当あり）

（件）

健康	介護	子育て	教育	障がい	仕事
13	7	5	0	0	1

経済	DV	虐待	生きがい	自死	その他
1	0	0	0	0	26

※その他の内訳は、空き家関連 9 件、防犯関連 5 件、移動手段に関する不安 5 件など。



（参考）エリア別の在宅数 ※2回目訪問対象は1回目不在者

南1（訪問数：26件）

	1回目	2回目
在宅	14	6
不在	12	6

※在宅時の調査拒否 3 件

北1（訪問数：15件）

	1回目	2回目
在宅	5	3
不在	10	7

※在宅時の調査拒否 1 件

北3（訪問数：19件）

	1回目	2回目
在宅	12	5
不在	7	4

※1 回目在宅のうち、2 件は 2 回目訪問を希望（訪問時忙しかったため）。在宅時の調査拒否 1 件。

南2（訪問数：26件）

	1回目	2回目
在宅	18	3
不在	8	5

※在宅時の調査拒否 1 件

北2（訪問数：15件）

	1回目	2回目
在宅	8	0
不在	7	7

※訪問時間指定 1 件

<聞き取り内容>

■調査対象者自身の悩みごと

- ・「悩みごととはとくにない」という回答が多数。親族が生駒市内や関西に住んでいるケースが多い。
- ・「健康」に関する話題
 - ・高齢になってきたので、健康について不安。腰痛や、目や耳の機能低下等。
 - ・体操に通っている。
- ・「介護」に関する話題
 - ・要支援の認定があるが、通院に不安あり。サポートしてほしいがお願いできる相手がいない。
 - ・近くに親が住んでいる。今は健在だが、自分は出張等で家を空けることが多いため、家族に介護の負担をかけてしまうのが気がかり。
 - ・父が認知症。
 - ・自宅で介護中。家族の協力を得て、介護サービスも利用しながら一緒に過ごしている。
- ・「子育て」に関する話題
 - ・子どものつながりで近所づきあいがある。ホームパーティをすることも。
 - ・保育園入園のハードルが高い。
- ・「仕事」「経済」に関する話題
 - ・定年後すぐに心筋梗塞で倒れてしまい、現在リハビリ中で無職。回復したら少しずつ働きたい。
- ・「その他」に関する話題
 - ・空き家が多く、心配。猫が住み着いているのか、フンが多くて困っている。
 - ・隣の家の木が茂っており、防犯面で心配。また葉っぱの処理が大変。
 - ・今は車があるが、運転できなくなった時、交通の便（バス等）が悪いので不安。スーパーが遠い。
 - ・迷惑電話が多く困っている。対処法があれば教えてほしい。
 - ・子どもに留守番させる時間があるので、防犯面が心配。
 - ・区画を分割して家が建っているので、ゴミ出しの場所があふれてしまわないか懸念している。
 - ・近所の方と互いに安否確認をしている。お向かいさんと仲が良い。

■近所関係の気になること

- ・最近見かけない方がいる。高齢者の一人暮らしだったため、施設に入られたのか？
- ・近所の方のことは知らない。
- ・隣の家の方から理不尽なことを言われることがある。その方の息子さんはわかってきている。

■調査者の気づき等

- ・高齢の方には、ふれあいクラブへもお誘い。
- ・近隣に住むご家族や、ご近所どうしの見守り合いがある。
- ・インターホンで「市役所です」と言うとすぐに出てきてくれた。元気なのはいいが詐欺等が心配。
- ・行政や民生委員等への不満が強い方がいた。
- ・木が生い茂っており近隣の方が困っているが、居住者がいるため何も対応できなかった住居
→居住者本人を訪問、売却予定ありの旨聞き取り。

<聞き取り内容からの展開>

- ・家族関係に悩みのある人は極めて少ない。
- ・20 年以上前から住んでいる層と、最近家族で引っ越してきた若い層が混在。各層の中でそれぞれの近所づきあいがある一方、居住歴の差がある人については「よく知らない」とおっしゃる方が多い。
- ・加齢に伴う健康不安
 - 地域包括ケア推進課では、いきいき百歳体操をはじめ、介護予防事業を多数展開。公式 YouTube チャンネルにて体操の動画も配信中。地域包括支援センターでは、介護予防教室の開催や、対面・電話での相談受付、訪問などを実施。
- ・父が認知症。
 - 情報を整理し地域包括支援センターへ共有。現状、介護サービスの利用はないが、近所を通る際などに見守りできるよう依頼。
- ・空き家に対する不安感が大きい。【全世代】
 - パトロールや見回りの実施など、空き家にならないために必要な準備の啓発等が必要。
- ・空き家との相関は不明だが、野良猫が多いとの指摘も。
 - （環境保全課）野良猫が居ついているということは、飼育はしないまま餌だけをあげている人が近隣にいる可能性が高い。無断餌やりをやめるよう啓発、または「地域ねこ」活動への展開もあり。
- ・（将来的な）移動手段に対する不安感が大きい。【高齢世代】
 - 通院や買い物のサポートを求める声が上がった。地域と行政が手を組み、安心して外出できる仕組みづくりにつなげたい。
- ・勧誘やいたずら電話等に困っている高齢者が一定数いる。
 - 家の外にコミュニティ（通いの場等）のある方がほとんどではあったが、恥ずかしい等の理由で、知り合いだから相談できるとも限らない。公的な相談窓口の啓発も併せて行っていく必要がある。
 - （防災安全課・消費生活センター）詐欺警報を発令中。詐欺防止のため、応答前に「録音します」とアナウンスが流れる機器については、防災安全課で補助金があり、令和7年度も実施予定。また、警察庁のホームページに、固定電話の番号表示・非通知拒否サービスが掲載されているため紹介。
- ・生活環境について、落ち葉の処理やゴミ出しの場所についての言及があった。
 - 近所の方どうし話し合いによる解決が基本的な形にはなるが、ゴミ出し場所1つに対する世帯数が定められているため、それを超過していればゴミ出し位置を増設できる。
 - 高齢者・障がいのある方向けのゴミ収集サービス「まごころ収集」の活用も可。（利用条件緩和）

（参考）谷田町との比較

- ・2回訪問終了時の在宅率は、生駒台の方がやや高い。
- ・生駒台では、谷田町に比べ、夫婦で調査に対応された方が多い。
- ・世帯状況、在宅時の回答率はほとんど同じ。
- ・家族関係については、谷田町では「良好」58%、「概ね良好」19%であったのに対し、生駒台では「良好」79%、「概ね良好」7%であった。
- ・聞き取り内容の類型については、著しい差はなし。生駒台では「空き家（類型では「その他」に分類）」への言及が目立った。また、谷田町で17%を占めた「経済」の話題が、生駒台では2%だった。